

「人とこの世界」 開高健著／ちくま文庫

手嶋龍一さん ジャーナリスト、作家



開高健さんは天才的な小説家ですが、彼のルポルタージュは、まさに天才そのもの。その中でも私が最高だと思うのが、1970年に出たこの本です。金子光晴、井伏鱒二、

大岡昇平、石川淳、武田泰淳ら、名だたる作家や詩人らへのインタビュ集です。開高さんといえば「オーパー」や「ベトナム戦記」などが知られているでしょうが、これは彼自身の本来のフィールドである文学での真剣勝負のルポルタージュです。面白いのは、インタビュや人物描写だけではなく、開高さんがその人物にインタビ

## 作家や詩人 浮かぶ人物像 真剣勝負のルポ

ューするに至るまでのプロセス、作品論まで含めて書いてあること。それらが相まって、その人物の肖像画をつくりあげていく。中でも、「死の棘」で知られる作家の島尾敏雄さんへの取材の回が一番好きですね。島尾さんが当時住んでいた、奄美大島に行くくんだりから始まるんです。その文章がすばらしい。

さまざまなインタビュも

この本を読んできましたが、この分野の日本の最高峰と言ってよいと思う。この本から学ぶことは多かったですよ。この本を読んでいなかったら、気付かなかったことがたくさんあった。今もなお、多くの人に読んでほしい一冊です。とりわけ、これからジャーナリストを目指す人たちは、ぜひ。ほかに人間を描いたノンフィクションとしては、ゲイ・タリーズ著「名もなき人々の街」（青木書店）もおすすすめです。（談）

